



弥生時代のお墓事情

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

1 福岡県内における弥生時代の墓の変遷

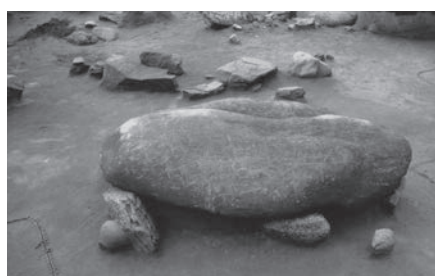
縄文時代後期～晩期には縄文土器の深鉢ふかぼちを棺に用いた埋葬法がありますが、紀元前5世紀前半頃の弥生時代早期になると、乳幼児用の墓には日常容器の大形壺を棺に採用した甕棺墓かめかんぼが出現します。一方、成人用の墓は木棺墓もつかんぼや土壙墓どこうぼがありますが、玄界灘沿岸地域の特に糸島地域では、この木棺や甕棺の上に大きな石を置き、数個の石で支えた支石墓しせきぼがあります（左上写真）。この支石墓や木棺墓は、弥生時代開始期に朝鮮半島南部から水田稲作や大陸系磨製石器などとともに伝わった新たな墓です。

紀元前3世紀前半～中頃の弥生時代前期中頃になると、甕棺に埋葬すると骨の残りが良いことから、死後の再生を願う思いや土器製作技術の発達により、成人も甕棺に埋葬するようになりました。紀元前2世紀頃の弥生時代前期末～中期初頭には、福岡県西部では、成人用の墓は木棺墓（左下写真）から甕棺墓（右上写真）に急速に変化します。

しかし、成人甕棺葬は盛行する弥生時代中期でも福岡平野～筑紫平野北部～佐賀平野が分布の中心で、

東は古賀市や飯塚市の一部、西は長崎県五島列島や大村湾、島原半島の一部、南は熊本県北部や大分県西部の一部、鹿児島県薩摩半島西部などに点的・飛び地的に展開しています。弥生時代の北部九州を代表する墓制とされる成人甕棺葬ですが、意外にも狭い範囲に広がる墓制であったのです。県内における成人甕棺葬以外の地域は、成人用は弥生時代前期以来の木棺墓や土壙墓が主体で、乳幼児だけが日常用の甕を転用した甕棺墓などに埋葬されていました。

ではなぜ甕棺葬が注目されるかと言えば、甕棺は土器であるため、それ自体で編年することが可能だからです。また地域の首長クラスの甕棺墓には副葬品として中国・朝鮮半島で製作された銅鏡どうきょうなどが含まれていることがあり、その製作年代から弥生時代の絶対年代を推定することができます。さらに甕棺内に人骨が残っていることがあり、その分析から渡来人問題の解明が期待できるなど、甕棺葬は北部九州の弥生時代、そして当時の東アジアにおける日本列島の社会環境を知る重要な資料として、大きく注目を集めているのです。



支石墓（糸島市新町遺跡）
（写真は糸島市教育委員会提供）



甕棺墓（春日市門田遺跡）



木棺墓（小郡市三沢北牟田遺跡）



箱式石棺墓（糸島市三雲遺跡群）

この甕棺葬は弥生時代中期に盛行しますが、弥生時代後期前半（1世紀）には基本的に終わりを迎え、その後は箱式石棺墓（表右下写真）や土壙墓が多くなりますが、墓の数自体は甕棺墓に比べ激減します。またこの後期段階では成人墓とともに乳幼児墓が以前より広い間隔で配置されています。すなわち墓に埋葬される人、されない人という階層分化が進展したことを示していると考えられ、この社会構造は古墳時代へと繋がる基盤となります。

2 甕棺葬の墓地構成と祭祀

弥生時代中期前半には、墓地中央の墓道両側に順次、甕棺墓を造っていくことで列状の墓地になるものがあり、さらにその外側には祭祀土坑がある列埋葬と呼ばれるタイプが典型的な墓地構成になります（左上写真）。この祭祀土坑は、死者が出る度に歌舞飲酒する祭りが行われ、そこで使った土器を捨てた跡であり、またその位置は墓地の端にあって特定の墓ではなく、墓地全体に対応した配置になっていることから、このタイプの墓地では基本的に飛び

抜けた被葬者はいなかったと考えられます。

弥生時代中期後半（紀元前1世紀）になると、現在の糸島市周辺にあった伊都国や春日市～福岡市周辺にあった奴国には、中国製の銅鏡を大量に副葬した甕棺墓の存在から「王」が出現したと考えられています。おそらく墓地造営にあたって王や首長による強い規制が働いたため、決められた一定の範囲内に墓地を造らざるを得ませんでした。その結果、蜂の巣状態の密集した甕棺墓地が出現します（左下写真）。甕棺墓は棺同士で切り合うわけにはいかないので、次第に土壙墓などへ移り変わっていきます。

この中期後半の甕棺葬に伴う祭祀は、墓地の内部や外縁に祭祀土坑を設けて祭りを行っています（右上写真）。この祭祀土坑から出土する土器には、久留米や朝倉など甕棺葬の盛行した地域の周辺を中心に、土器表面をベンガラという赤色顔料で赤く塗り、へら状の工具で土器表面を丁寧に磨いて焼き上げた「丹塗磨研土器」が多く見られます。筑前町栗田遺跡出土祭祀土器がその代表例です（右下写真）。

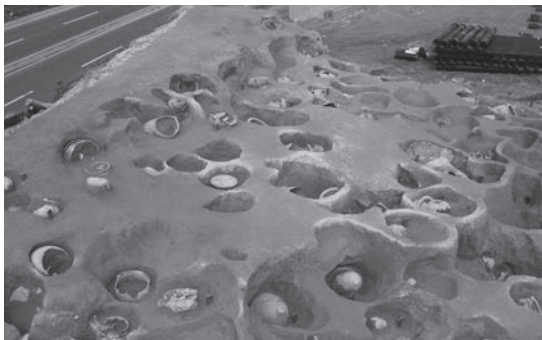
（学芸調査室 大庭孝夫）



二列埋葬（筑紫野市永岡遺跡）



祭祀土坑（筑前町栗田遺跡）



集塊状墓地（筑紫野市道場山遺跡）



筑前町栗田遺跡祭祀遺構出土土器
（重要文化財・文化庁所蔵）



編集 発行：平成23年2月1日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>